

### 1/3 『靈的成熟をめざして』(エペソ4:13)

長谷川望牧師

\* 「ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身だけにまで達するためです。」(エペソ 4:13)

キリストご自身が使徒、預言者、伝道者、牧師、教師を建てられて、彼らら人々に奉仕ができるようにさせ、キリストのからだ(=教会)を建て上げるようにされた。(エペソ4:11~12参照) 教会を形作っているのは、イエスを信じている人たち、また信じたいと願っている人たちであるから、一人一人が成長して成熟することが必要である。

「靈的成熟」とは、肉体的あるいは精神的成熟とは関係なく、神との関係において成熟しているかどうかということである。言い換えれば、私たちにとって、信仰において大人になっているかどうかの問題である。

\* 教会が建て上げられるためになくしてはならないことは「一致」である。「信仰の一致」と「神の御子に関する知識の一致」。私たちはどういうクリスチャンになることが求められているのか、またイエス・キリストがどういう方であるかを理解することが神の御心にかなうことなのか。その答えは、簡単ではないが、聖書からじっくり学んでいきたい。

\* 朝ドラ「あさが来た」のモデル、広岡浅子が1917年に書いた信仰エッセー「一週一信」より。「今日のキリスト教会が割合に発達しないということの原因はどこにあるのであろうか。もしも自分の見るところをいうことを許してもらえばこう言いたい。我々銘々の人格品性が、今一段神の靈に満たされないということに帰着すると思う。言を換えていうならば、我らが神を憧憬し、救い主の十字架の意義をモット明瞭と自覚せないためであると思う。」(新教出版社「人を恐れず天を仰いで」の「方法に窮する勿れ」の項より)。100年前と現在。同じような状況にあると思う。

\* 完全に靈的な大人になっている人を具体的にイメージできるだろうか。パウロやルターやカルバン? マザーテレサ? 彼らとて「キリストのみたけ」にまで達したという言うことができない。私たちに必要な考えは「あらゆる点において成長する」こと(エペソ4:15)。成長の過程ではどんな人間でも必ず欠けや不完全なところがある。完全な靈的大人はイエス・キリストしかいない。完熟のモデルはイエス・キリストである。究極にはこの方をめざして、モデルにして成長し続けていきたい。